

1 市章・市の木・市の花

○市 章



新旭市の将来都市像「ひとが輝き海とみどりがつくる健康都市“旭”」をイメージし、旭(asahi)の頭文字「a」をモチーフに、青色は海を、緑色は豊かな自然を、そして全体のシルエットは、それらの自然と大地の恵みの中で、健康で元気はつらつと躍動する旭市民と、未来へと飛躍する活力ある旭市の姿を表しています。

〔平成17年10月29日制定〕

○市の花／ツバキ



大穀倉地帯である干潟八万石は、かつて「椿の海」と呼ばれ、その「ツバキ」の名は馴染み深いものがあります。そのツバキにちなみ、制定されています。濃い緑の中に咲く花は映え、広く親しまれています。

〔平成17年10月29日制定〕

○市の木／クロマツ



白砂青松と謳われる九十九里浜を代表する木。広く市内に生育し、潮風から守ってくれるなど、力強く頼りがいのある木です。

〔平成17年10月29日制定〕

○旭の由来

— 信濃より いづる旭をしたい来て 東のくにに 跡とどめけむ —

この歌は、木曾家の末裔である国学者 野々口隆正が、1852年に現在の旭市にある木曾義昌（源平の戦いで朝日将軍と称された木曾義仲の19代子孫）の旧跡を訪れた際、この悲運の武将をしたい偲び詠まれたものといわれ、これを由来に明治22年に旭という地名が誕生しました。

1 市史

2 旧市町の廃置分合、境界変更及び名称変更

(旧旭市)

明治22年 4月 1日 合 併: 網戸村、成田村、十日市場村、太田村(旭町となる)
昭和29年 2月11日 合 併: 旭町、矢指村、富浦村(旭町となる)
昭和29年 6月 1日 合 併: 共和村、豊畑村を旭町に編入
昭和29年 7月 1日 境界変更: 海上町琴田の一部を編入
市制施行
昭和30年 2月11日 境界変更: イの一部を銚子市へ
昭和30年12月 1日 境界変更: 海上町琴田の一部を編入
昭和35年 9月 1日 境界変更: 海上町江ヶ崎、琴田の一部を編入
昭和59年 5月 1日 境界変更: イの一部を海上町へ
平成 6年 4月 1日 境界変更: 干潟町萬歳の一部を編入
旭市琴田の一部を干潟町へ
平成11年 2月 1日 境界変更: 旭市琴田の一部を海上町へ編入
海上町琴田の一部を旭市へ編入
平成12年 4月 1日 境界変更: 旭市川口の一部を八日市場市へ
八日市場市川向の一部を旭市へ編入

(旧海上町)

明治22年 4月 1日 合 併: 清滝村、岩井村、松ヶ谷村、幾世村(滝郷村となる)
見広、大間手村、蛇園村、倉橋村(鶴巻村となる)
後草村、琴田村、高生村、江ヶ崎村(嚶鳴村となる)
昭和29年 3月31日 合 併: 鶴巻村、滝郷村、嚶鳴村(海上町になる)
昭和29年 7月 1日 境界変更: 一部の地域が海上郡旭町へ
昭和30年12月 1日 境界変更: 一部の地域が旭市へ
昭和32年 8月 1日 境界変更: 海上郡飯岡町の一部を編入
昭和35年 9月 1日 境界変更: 一部の地域が旭市へ
昭和59年 5月 1日 境界変更: 旭市の一部を編入

(旧飯岡町)

明治22年 4月 1日 合 併: 飯岡村、上永井村、下永井村、行内村、平松村
横根村、萩園村、岩崎村(飯岡町となる)
昭和29年 3月31日 合 併: 飯岡町、三川村(飯岡町となる)
昭和32年 4月 1日 境界変更: 銚子市の一部を編入
昭和32年 8月 1日 境界変更: 一部の地域が海上町へ
昭和33年 8月 1日 境界変更: 一部の地域が銚子市へ

(旧干潟町)

明治22年 4月 1日 合 併: 萬歳村、関戸村、溝原村(萬歳村となる)
清和村、南堀之内村、米込村、長部村(荘内村となる)
鎚木村、萬力村、秋田村(古城村となる)
昭和30年 4月10日 合 併: 古城村、中和村、萬歳村(干潟町となる)
昭和31年 4月15日 境界変更: 東庄町の一部を編入
昭和36年 9月 1日 境界変更: 東庄町の一部を編入

(旭市)

平成17年 7月 1日 合 併: 旭市、海上町、飯岡町、干潟町(旭市となる)